

## 平成 21 年「ガラス産業連合会新年会」報告

(社)ニューガラスフォーラム事務局

### Report on the New Year Party of Glass Industry Conference

*New Glass Forum*



(左から、板硝子、硝子繊維、ガラスびん  
電気硝子/NGF、硝子製品の代表)



(山中昭廣ガラス産業連合会会長)

薄曇りで、冷え冷えとなった、去る、1月21日(水)午後4時から5時半頃まで、ガラス業界の風物詩ともなった観のある、「ガラス連合会(GIC)新年会」が東京會館で開催されました。今回も、産・学・官・プレス・団体関係者350名が参加して盛況な会でした。参加団体は、板硝子協会、硝子繊維協会、(社)日本硝子製品工業会、日本ガラスびん協会、電気硝子工業会、(社)ニューガラスフォーラムの6団体です。小川晋永硝子製品工業会専務理事の司会で、山中昭廣GIC会長(ガラスびん協会会長・石塚硝子社長)の挨拶の後、来賓の後藤芳一・製造産業局次長の挨拶がありました。その後、藤本勝司・板硝子協会会長(日本板硝子会長)の乾杯の音頭で、懇親会に移りました。山中GIC会長の挨拶の

概要は、以下の通りでした。

「日本経済については、大変厳しい環境下にあります。きしくも昨日就任されたオバマ大統領の就任式を深夜の中継で見ましたが、力強いメッセージにあった通り、やがてアメリカが元気を取り戻し、そして、世界が変わり、日本にも早く景気回復のムードが押し寄せることを期待するものであります。このような環境下であっても、GIC6団体は、次のような活動に熱心に取り組んでいます。つまり、板硝子協会は、エコガラスの普及をTVCMなどで展開して3人に2人の認知度まで高めました。硝子繊維では、北京オリンピックの“鳥の巣”スタジアムの屋根材に日本製グラスファイバーが採用され、日本の技術力の高さを世界にアピールでき



(後藤芳一製造産業局次長)



(350名を越えた参会者)

ました。電気硝子では、省エネ効果の期待できる電球型蛍光灯バルブやFPDガラス基板の安定供給を維持してきました。硝子製品では、安全マークの普及やガラス工芸とのコラボレーションによる文化の面からの支援に取り組んでいます。ガラスびんでは、環境・安全・安心な容器としての復権に向けたアプローチの展開をはかっています。ニューガラスでは、“三次元光デバイス”プロジェクトに加えて、“ガラスの革新溶融”に取り組んでいます。これは、現在のシーメンス炉に代わる150年ぶりのプロセスイノベーションです。今後とも、GIC参加の業界が一致協力して、“ガラスには、未来と希望があります”との、GICのキャッチフレーズの実現を目指して行きたい」。

ところで、新年会の進行では恒例ですが、最

初に、壇上の各団体の会長が順次、司会者から紹介されます。今年、初参加となった硝子繊維協会長のリエナール氏の番になると、司会者からすかさず、「GICも国際化しています」と紹介され、受けていました。彼は、仏・サンゴバンの子会社のマグ社の社長です。もつとも、大阪大学に留学経験があるので、私も聞いた事がありますが、日本語はベラベラです。

さて、中締めは、堤 俊彦・硝子製品工業会長（日本耐酸壘工業社長）の音頭のもとで、3本締めでした。堤会長は、「昨年は、中締めの音頭をとった藤本さんが、7番アイアンの要領で足を開いて手を構えてくださいと言っていました。今回もその要領でいきます」と、藤本会長に劣らずゴルフ好きの堤会長の掛け声で、大盛り上がりの中でのお開きとなりました。